

第48回 メディアとことば研究会

2017年3月17日(金)

15:00～17:00(14:30受付開始)

於 学習院大学目白キャンパス

東2号館2階201教室

(<http://www.univ.gakushuin.ac.jp/campusmap.html>)

参加費無料

「メディアとことば研究会」HP

<http://www.hituzi.co.jp/kenkyukai/media-kotoba.html>

※参加ご希望の方は、メディアとことば研究会事務局 medialalala**gmail.com (**は@) まで、お名前・ご所属をお知らせ下さい。

準備の都合上、3月15日(水)までにご連絡下さい。(当日の飛び入り参加も歓迎します。)

◎講演者…………… **遠藤 薫** (学習院大学教授)

◎題目…………… **今振り返る、
東日本大震災とメディア**

——ドキュメンタリー番組における〈被災者〉と〈報道者〉——

◎要旨

あの震災からもう6年が経った。しかし、多くの人たちが、いまも、元の生活を取り戻せずにいる。直接的な被害を受けなかった者たちもまた、あの揺れやテレビ画面に映し出される状況を身体的感覚として記憶している。私は、2012年3月に、『メディアは大震災・原発事故をどう語ったか——報道・ネット・ドキュメンタリーを検証する』(東京電機大学出版局)を上梓した。そこではさまざまな角度から震災直後の「メディアに現れた〈語り〉」について分析を行った。その中の一つとして取りあげたのが、「ドキュメンタリー」であり、そこに現れた〈被災者〉-〈報道者〉の関係性、および〈語り〉と地域社会の関係に着目した。今回の講演では、大震災・原発事故に関してその後制作されたドキュメンタリー作品が、その〈語り〉をいかに時系列的に変化させているか、あるいは変化していないか。そこから何が明らかになるか、などについて論じたい。

ひつじ書房 新刊

会話分析の基礎

高木智世・細田由利・森田笑 著 定価 3,500円+税



日常会話の詳細な分析から相互行為の秩序を明らかにする「会話分析」という研究分野が近年注目を浴びている。豊富な事例と課題を通して、その研究の視点や基礎を学ぶ入門書。

〒112-0011 東京都文京区千石 2-1-2 大和ビル 2F

TEL: 03-5319-4916 FAX: 03-5319-4617 toiawase**hituzi.co.jp (**は@)

ひつじ書房

